3年目の女

宝木千景

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
３年目の女

【Ｎコード】
Ｎ００１０Ｔ

【作者名】
宝木千景

【あらすじ】
とある女がいた。女は今年で社会人３年目。
これはそんな女の心を描いた詩。

問い掛け（前書き）

これは物語ではありません。ご注意ください。

問い掛け

ふと、思う。
何処に行きたい？　何をやりたい？

ふと、感じる。
何で焦るの。何に迷うの。

忙しい仕事と暇な休日。
年上の後輩に大学生の友人。

ふと、聞きたい。
どれが好きなの。何が嫌いなの。

ふと、問いたい。
何を始めたい？　どれを続けたい？

熱の冷めた漫画に途中まで読んだ小説。
片っぱしに手を出した趣味と勢いで申し込んだ通信教育。

流れる時間と移ろう季節。
振り返る過去と目を凝らす未来。

何が良い？　何を言ってほしい？
ねぇ、どうしてそんなに不安なの？

不要

言葉が欲しいわけじゃない。
何か言って欲しいわけじゃない。

「大丈夫だよ」
「気にしなくていいよ」

そんなことは分かっているの。

友人は社会に出るのに必死だけれど、私はもう3年目。
焦る必要なんて何処にもないの。

先輩は結婚するのに必死だけれど、私はまだ２０歳。
やっと大人に仲間入りしたばかりなの。

傍から見れば、私なんて良い方なのだろう。

「もう就職しているから楽でしょう」
「まだ若いからチャンスはあるでしょう」

このままでいても、良いままなのだろうか。
いつの間にか、置いてきぼりになっていないだろうか。

だからこそ、不安。
言葉が欲しいわけじゃないの。

おひとりですか

最近増えたこと。
ふと物を持つと、床に投げつけたくなる衝動。

最近やったこと。
職場の倉庫に自分しかいない時、床に置いてあった段ボールを本気で蹴る。

最近思ったこと。
何だか、とにかく一人になりたい。

夢中になっているものは、意外にたくさんある。

最近お気に入りのバンド。やたら買い漁るビジネス書。
そこそこ更新を頑張るブログ。全然飽きもしないカラオケ。

でも、ふと毎日が楽しくないと思う時がある。
なんでだろう？

やりたいことは、意外とたくさん思いつく。

バーゲンで衝動買い。自立した一人暮らし。
おしゃれなカフェ巡り。新しい習い事。

でも、ふと全てが嫌になる時がある。
なんでだろう？

仕事は嫌いじゃない。親も嫌いじゃない。

でも、ふと一人になりたい時がある。

被害妄想と自己嫌悪

何だか絶えなくなった。
仕事が進まないのは、他人のせいだと考えてしまうこと。

心底嫌で仕方ない。
仕事が進まないのは、他人のせいだと考えてしまう自分。

現実から目を背けようとして、さらに足を踏み入れるのは悪循環。

「私は悪くない」
他人の非を心に並べて涙を流す、あぁ私は哀れな女の子。

「人の所為にしているだけ」
心の弱さを気付き自分を責める、あぁ私は愚かな小娘なり。

醜い考えに支配されてしまうのは、己自身の弱さゆえに。
目の前の現実が受け入れられないのは、己自身の未熟さゆえに。

不規則な浮き沈みをする感情と、大人になりきれない心。
何だか絶えなくなって、心底嫌で仕方ない。

何度でも壁にはぶち当たる

振り返れば何がいる。
くよくよ悩む過去の自分。

何度振り返って後悔しても、もう後には戻れない。
時折疼く傷さえも、あの時を生きた証そのもの。

一人になりたい。もう一度やり直したい。
そんなことは足掻きだと気付いていた。

前を向けば何がある。
これから向かう私の未来。

いつまでくよくよ悩んでいても、もう後には戻れない。
無情に流れる時間が、心を少し癒してくれただろう。

焦らなくてもいい。ゆっくり歩いてもいい。
今日と違う明日は、きっと来るから。

淡い色の幸せ

道を歩けば、鼻腔をくすぐる金木犀の香り。
振り返れば、別れを告げた季節の姿が見える。

流れた時で、何を得た？
過ぎ去った日々で、何が変わった？

季節は巡り、心の曇りが晴れたのだろうか。
否、晴れるどころか増すばかり。

思うように、相手に伝えられないもどかしさ。
思ったように、仕事が進まない腹立たしさ。
負の感情に埋もれてしまう、そんな自分。

季節は巡れど、曇る心は変わらない。
しかし、ほんの少し変化はあった。

和らぐ日差し、涼やかな風。
楽しい読書、おさまらない食欲。

秋の恵みが与える、ほんの小さな幸せ。
曇った心が、一瞬ほんのり薄くなる。

まやかしの如く、あっさり消える幸せだけど、
楽しいと思うことがあるならば、それほど人生悪くはないだろう。

始まりの日

二十一年前の誕生日。
小さな生命(いのち)が、産声を上げた。
その目には、どんな世界が見えていたのだろうか。

二十一回目の誕生日。
小さかった生命は、大きくなった。
その目には、どんな世界が見えているのだろうか。

朧気な過去。薄汚れた現実(いま)。真っ暗な未来。

それら全てが、≪自分≫という存在を形作るもの。
それら全てが、たった一つの≪人生≫という道。

一年に一度。全ての生命に訪れる、尊きもの。

それは、小さな生命がこの世に生まれ落ちた日。
それは、自分が生まれたことに感謝をする日。

あぁ、自分は今、生きている。
あぁ、自分は今、人生を歩んでいる。

儚い時間

気が付けば、もうこんな時間。
一日が、とても早く過ぎていく。
朝目覚めたかと思えば、あっという間に眠る時間がやってくる。

気が付けば、もう冬の季節。
すっかり、外は寒くなってきた。
夏の節電対策が、ついこの間のように感じてしまう。

気が付けば、もう１２月。
１年も、残りわずかになっていた。
この１年で、一体何を得られただろうか。

不安定な心。不器用な性格。
仕事への不服。家庭への不満。

あらゆることで揺れ動いていたあの頃も、
今では随分前のことに思えてくる。

楽しい読書。気に入った曲。
想いを歌にのせて、気持ちを言葉で書いて。

あらゆることで揺れ動いていたあの頃を、
今ではすっかり笑って思い出せている。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0010t/

3年目の女

2011年12月1日00時52分発行